

# 東京港コンテナターミナル



東京港大井ふ頭周辺の渋滞

## 「継続して改善を」

東京港コンテナターミナル周辺の渋滞は、昔のように6時間、8時間、10時間はさらにあるという状況からは改善されてきた。だが、陸上コンテナ輸送を行う運送事業者からは「以前に比べ待機時間が減って、3、4時間で済んだから良い」といっているにはならない」と、継続して待機問題の改善を求めている。(三村秀寿)

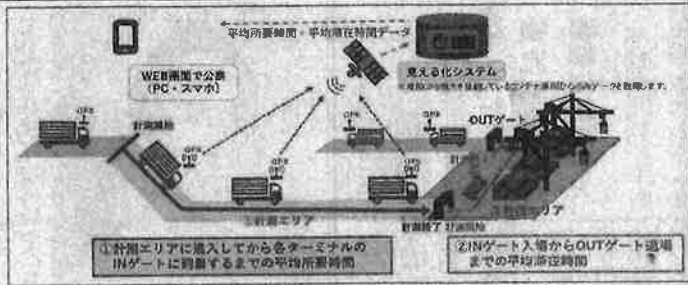
東京港の交通混雑「向」だといわれているにも関わらず、市街地に隣接しているのが、「施設容量の不足」は、東京港の外を拡張することができなことが原因となつている。

また、「夕方」に貨物を引き取る車両が集中する傾向については、荷主から輸望に対応するため、入品を午前中に納品するよう指示されるケースが多く、要の配送計画に寄与できているのではないかとされている。

## 混雑状況を「見える化」

### 東京港埠頭 GPS 位置情報活用

東京港における外埠頭の整備、貸付及び管理・運営などを行っている東京港埠頭(服部浩社長、東京都江東区)では7月(全国)で初めて、トラック事業者がコンテナターミナルに



コンテナ埠頭周辺道路における混雑状況の「見える化」

同社は「東京港道路における混雑状況の「見える化」の映像を見ることが出来るが、実際にどのくらい待機しているのか調べる必要があるので、計測エリアに進入してからターミナルのINゲートに到着するまでの平均所要時間を蓄積していくこととなる。

## 効率改善には標準化

### 日本コンテナ見合った対価も必要

年間およそ30万個のコンテナを輸送している日本コンテナ輸送(富治豊社長、東京都品川区)では、「渋滞に関しては、昔に比べて混雑していない時もある」と

「東京港の場合、それぞれのターミナルでやり方が違って、待機時間や効率に見合った対価を得るというもので、こちらのやり方にも並行して行っていくべき」としている。

「トラック事業者は運ぶ荷物の重量と距離に応じて運賃を収受しており、この利益がドライバーの確保につながる。そのため、待ち時間や渋滞問題の解決は必要だが、対応してもらえないのであ